



2025年7月29日  
仙台育英学園高等学校  
石田 真理子

## TOKが生徒にもたらす成果 The results that TOK brings to students

国際バカロレア（IB）プログラムは、グローバル社会に対応できる人材の育成を目指し、学びのプロセスそのものを重視する教育体系であることは周知されてきたように思います。IB教育がいいプログラムであるのはなんとなくわかるものの、実際どのような効果があるのかが皆さんが最も知りたいところでしょう。筑波大学が実施しているIBの教育効果に関する調査の研究グループの専門家会議に参加させていただいていますが、そこで改めて実感するのは、IBの教育効果を数字で測定することの困難さです。学力テストや進路実績といった定量的なデータでは捉えきれない、学習者の内面的変化や非認知能力の育成こそがIBの本質だからです。

2015年にDPを導入して以来、生徒の成長を態度や行動から実感することとしては、課題への探究心や新しいことに対して挑戦しようとする意識が高くなること、他者のために何かしようとする社会貢献に意欲的になることなどが挙げられます。

特に印象的なのは、「知の理論Theory of Knowledge」（TOK）の授業での生徒の成長です。この科目は教員にとっても、生徒にとってもこれまでの日本の高校教育には馴染みのなかったもので、知識の性質、範囲、限界、および知ることプロセスについて熟考します。TOKの授業で、生徒たちは「当たり前を疑う」姿勢を自然と身につけていきます。情報や事実を鵜呑みにせず、複数の視点から捉え、自ら考え、論理的に他者に伝える力が育まれます。

ある生徒は、「TOKで得られた論理的思考のおかげで、レポートや論文を上手に書けるようになっただけでなく、友達とのコミュニケーションも上手く取れるようになった」と話してくれました。これは単なる学力の向上ではなく、自分の考えを構造的にまとめ、他者の立場を尊重しながら対話できる力が育ったことの証です。教育効果として何よりも尊い成果ではないでしょうか。

TOKは、集大成として、所定課題に答えるエッセイを書くことが課せられます。TOKエッセイは「課題論文 Extended Essay」（EE）と合わせて最高でも3点しか加点されませんが、TOKエッセイの完成度が高い＝論理的思考力の成熟という傾向は、指導を通して日々感じています。このエッセイは、単なる知識の再構成ではなく、「知るとは何か」「私たちは何をどのように知なのか」といった本質的な問いに対して、自分の視点を論理的に構築していく作業です。そのプロセスを通じて養われる思考力は、IBディプロマ全体の成果にも直結します。

例えば、IA（内部評価課題）においても、優れたTOK的思考を持つ生徒は、問題設定が的確で、論証の筋道が明快です。教科の枠を超えて、自分の考えを整理し、根拠を持って主張する力が身につけているからこそ、より深みのある考察ができます。

TOKは決して抽象的な学問ではなく、全教科の学びを支える思考の土台であり、学術的なスキルを横断的に育成する核となる存在です。論理的思考ができるということは、知識を活用する力を手に入れたということだと言えます。それこそが、IB教育の真価だと感じております。IB教育の効果は、テストの点数に表れるものではなく、生徒が自らの思考と向き合い、世界と接続し、学びの意味を見出していく過程にこそあります。定量的な評価が難しい分、現場の声や生徒の自己表現が、教育効果を語る大切な証拠となるのです。